

第7回麻生区区民会議（全体会議）議事録

1 開催日時 平成24年5月25日（金）午後3時～午後5時12分

2 開催場所 麻生区役所第1会議室

3 出席者 [委員]

天野委員、飯塚委員、石井委員、植木委員、魚本委員、
大高委員、金光委員、鴨志田委員、菅原委員、高瀬委員、
竹市委員、武濤委員、田中委員、土井委員、東川委員、
福田委員、柳島委員、山崎委員

（欠席）梶委員、勝田委員

[参与] 雨笠参与、木庭参与、月本参与、相原参与

（欠席）尾作参与、花輪参与、山崎参与、吉田参与

[区役所]

瀧峠区長、中山副区長、小沼区民サービス部長、
浅見保健福祉センター所長、大西保健福祉センター副所長
小林こども支援室長、澁谷道路公園センター所長、
杉山総務課長、田中地域振興課長

[事務局]

安生企画課長、白石企画課担当係長

4 傍聴者 3人

5 次 第 1 開 会

2 議 事

（1）「第3期麻生区区民会議報告書」について

（2）その他

3 その他 第3期麻生区区民会議についての意見・感想

4 閉 会

【資料】

・資料1 第3期麻生区区民会議報告書（案）

・里山ボランティア募集チラシ

第7回麻生区区民会議

日 時 平成24年5月25日（金）

午後3時から

場 所 麻生区役所第1会議室

午後3時開会

1 開 会

武濤委員長 それでは、定刻となりましたので、ただいまより第7回麻生区区民会議を開催いたします。

早いもので、一昨年の7月から活動を続けております第3期の区民会議も7回目の全体会となり、本当のまとめの段階になってまいりました。今日はそういう形でしっかりと皆様と審議していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

2 議 事

武濤委員長 それでは、本日の議事並びに資料について確認をさせていただきます。事務局のほうでお願いいたします。

事務局 事務局から説明をさせていただきます。配付資料の確認をさせていただきます。

一番上に本日の会議次第、次に、右上に資料1と書かれました、第3期麻生区区民会議報告書（案）がございます。本日の資料は以上でございます。また、資料以外に、区民会議から発しました里山ボランティアの募集のチラシもつけさせていただいておりますので、後ほどご覧いただければと思います。

次に、本日の議事について確認させていただきます。次第をご覧ください、2つの議事がございます。まず区民会議報告書について3つの部会からそれぞれ内容の報告をお願いいたします。その他といたしまして、今回が最後の区民会議になりますので、委員の皆様からご提案等がございましたら、頂戴したいと思います。

以上でございます。

調査審議課題について

（1）「第3期麻生区区民会議報告書」について

武濤委員長 それでは、議事に入りたいと思います。議事の最初は「第3期麻生区区民会議報告書」についてです。では、この報告書につきまして、全体の構成に関する部分を企画部会の金光部会長をお願いいたします。それに続きまして、2つの専門部会「地域交流・文化部会」、そして「環境・緑化部会」という形で、それぞれの部会長等にご説明をお願いしたいと思います。

それでは、まず最初に、全体の構成等に関しまして、企画部会の金光部会長からご説明をお願いしたいと思います。部会長、よろしくお願いいたします。

金光委員 それでは、簡単に、編集方法についてのご説明をさせていただきたいと思います。皆様のお手元に区民会議報告書の資料1が配られていると思いますけれども、この目次をベースにしてこれからご説明したいと思いますので、ひとつよろしく願いいたします。

我々がまず最初にこれを作るに当たって、企画部会で話し合いましたのは、第1期、第2期の報告書を見ますと、100ページ近くを要して編さんされているのですけれども、実際にそれだけのページ数が必要なのかどうかということで、もう少し簡潔にわかりやすいように編集し、大体60ページぐらいのボリュームで十分ではないだろうかと、考えました。各部会ごとの報告についても、1部会4ページ程度でまとめていけば、大体60ページ以内で収まるのではないかというような意見が出まして、それを基本的なベースにして、第1期、第2期の編集方法を踏襲しながら、改善すべきところは改善して、よりわかりやすい方向で編さんしていこうということで、第3期の報告書を作成しました。

基本的には、目次を、大・中・小項目と分けて、章立てのページにしてあります。第1章から第5章、それから、資料編です。資料編には、この会議にかかわるいろいろな調査とか、作成した広報紙を全部取りまとめて、わかりやすく見やすいような形にしてあります。第1章は区民会議について。第2章は第3期区民会議の課題選定の流れ、会議の構成等に関して。第3章は、各部会の審議内容を取り扱い、地域交流部会と環境部会に分けて、この見出しではっきりわかるような形にして、すぐページ数が参照できる格好にいたしました。それから、2つの部会でやりましたフォーラムは別個の扱いで、第4章という形で取り扱いをさせていただいております。

第1章の区民会議については、我々も区民会議に初めて参加したわけですが、参加前の理解としては区長に提案するというだけの役割だと思っていたのですが、実際にはモデル事業等をやって、それを実際に経験してみる、試行してみる、それをベースにして、その提案をするということが実際にやってみて初めてわかったわけです。また4期の方々にそういう疑問を持たせてやるのではまずいということで、第1章のところで、そういう1つの試行も含めた形で実施し、区長に対する提案をするのですよという説明書きをしてあります。第2章は、1期、2期と同じような内容の構成になっており、こここのところはそれほどの変更はしておりません。第3章のところは、実際の審議、調査、それから、行ったモデル事業等を細かく4ページ立ての中でわかりやすい形にしてあります。この中に提案まで入れてありますけれども、今回の特徴は、この提案の部門を1つ設けて、そこだけ見れば地域交流部会並びに環境・緑化部会が何をやったか、どういう提案をしたかというものが一目瞭然でわかるように4ページ立てで、表の形式で取りまとめてあります。そこを見ることによって、3期の委員の方々はこういう活動をしたのだということが理解できるような形に

まとめております。

それと、もう1つの特徴は、次期の人たちに了解しておいてもらったほうがいいことや、この区民会議に関して、どういうことに気がついたか、あるいは問題点があるかということ、第3期を振り返ってとして、1ページの中でまとめてあります。これを読むことによって、こういう点を事前に了解して、第4期の方々が区民会議に当たっていただければ、よりいい成果のある会議を開催することができるのではないかと思いますので、最後に掲載させていただきました。

全体として非常にコンパクトにまとめられたなと自画自賛しております。2期の場合、98ページのページを要しましたけれども、今回の3期の場合は約30ページ削減して報告書ができ上がりました。それぞれのところを見ていただければ、非常に簡潔な文章で書かれており、非常に読みやすい構成になっておりますので、ぜひ講読していただければと思います。

これに当たって、天野さんに非常に精力的に協力していただきました。微に入り細に入り、細かくチェックをしていただいて、この報告書ができ上がったのは、90%は天野さんの努力の成果かなと思いますので、この場を借りて、天野さんの精力的なご協力に感謝申し上げたいと思っております。

以上でございます。

武濤委員長 ありがとうございます。私が最初にお伝え忘れたのですが、この資料1の報告書は、まだ一部写真の差し込みですとか、皆様に午前中をお願いしている直しの部分とか、そういったものが若干反映されていない、改定中版ということでお渡ししております。全体の大きな枠組みですとか、内容のところはほぼこれでいっているという形になります。

それでは、引き続きまして、概要版のお話をお願いいたします。

金光委員 概要版は今作成している最中で、この会議が始まる前に委員長、副委員長と私の3人で事務局を交えて打ち合わせをしてきたところです。こういう大きな報告書ですと、区民の方々に配るのも大変ですし、第3期の区民会議がどういうことをやったかという概要版をA4の4ページぐらいのものにまとめて作成し、そして、これを各自治会に回覧して、区民の方々にこれを周知徹底しようということで、今準備をしています。これについては、企画部会と委員長を交えた形で、事務局と相談した上で最終的なものを作成したいと考えておりますので、これは前もって皆様方のご了承をいただければと思います。

内容的には、表紙に区民会議とはどんなものかということ、2ページ、3ページには、我々の提案をわかりやすく載せます。4ページ目は、委員の名前と、これを作って振り返っての一言文章を入れる、それと、区民会議とはどういうことか、こんな役割でやっていたのですよというようなものを図表で示して挿入しようと考えを進めて

おりますけれども、後でまた皆様方がいろいろな意見を言っていただく場がありますので、お気づきのことがありましたら、その時にまたいろいろな意見を頂戴できればと思いますので、ひとつよろしく願い申し上げます。

武濤委員長 概要版配布の予定は6月のいつ頃ですか。

金光委員 6月に作って、多分、回覧は7月になるのではないかと思います。6月中に全部印刷完了して、配付は7月、各町会の会議が7月の初めにあると思いますので、それに間に合うような形で配付したいと考えております。

武濤委員長 そういう形で準備していきたいということでございます。

報告書の全体構成、それから、概要版について、金光部会長からご報告をいただきました。

では、続きまして、地域交流・文化部会のご報告をいただきたいと思います。地域交流・文化部会は「高齢者・障がい者などが暮らしやすい環境づくり」、そしてもう1つ、「区民が主体となって進める芸術・文化のまちづくり」、この2つのテーマがござります。地域交流・文化部会の竹市部会長、それから、石井委員からご説明をいただきます。よろしくお願いいたします。

竹市委員 それでは、地域交流・文化部会から報告させていただきます。

委員長からご案内のとおり、地域交流・文化部会は、「高齢者・障がい者などが暮らしやすい環境づくり」と、「区民が主体となって進める芸術・文化のまちづくり」について、2つのテーマをもってやってまいりました。私からは「高齢者・障がい者などが暮らしやすい環境づくり」、石井委員から、「芸術・文化のまちづくり」について報告をさせていただきます。

まずは、資料1の5ページです。第3章をご覧ください。「高齢者・障がい者などが暮らしやすい環境づくり」というテーマを取り上げているわけですが、1つここに背景と書いてあります。麻生区のこれから2040年までの65歳以上の高齢人口がどんな推移になるかという基礎的なデータがここに示してあります。それから、右側には、単独世帯の割合とか、町会の加入率を示していますけれども、このような現実と見ますか、これからの推移を見て、「高齢者・障がい者などが暮らしやすい環境づくり」というテーマになったということでもあります。

2つ目に、検討経過と書いてあります。最初に、我々、地域交流・文化部会、総勢10名で構成しているわけですが、それだけではなく、20名の全体の委員から、個々に審議課題を提案してもらっています。それを見ますと、たしか、35ぐらいのテーマがあったと思います。地域交流というところに関しましては、そのうち22～23件であったかと記憶しております。そんな中で、共通しているところを1つまとめれば、地域で支え合うコミュニティシステムと言いますか、コミュニティの構築を一番大きな共通のテーマとして決定しました。そのテーマのもとに、では、具体的にどの

ように進めるのかということで、10名の地域交流・文化部会のメンバーがおのおの実際に自分が感じている高齢者・障がい者などの実態はどうなのだろうかということを中心に検討し、「高齢者・障がい者などが暮らしやすい環境づくり」というテーマを決定したわけです。

ところで、麻生区では、高齢者・障がい者が暮らしやすい環境、どんなシステムが、どんな組織があるのだろうかということヒアリングしたり、また、いろいろな資料に基づいて勉強したりしてきたわけです。それで、具体的な課題等を絞り込んだという経緯です。ヒアリング先は、麻生区の社会福祉協議会（以下、「社協」）、町会自治会、高齢者・障がい者等にかかわるボランティア団体、市民館等を対象にしましたが、特に社協で行っているささえあい事業について、ヒアリングをしました。そうすると、ボランティア団体等のところでも共通の課題として、1つは、区民への周知といますか、区民の認知度が非常に低い点が挙がりました。認知度が低いということは、結果的に利用者が少ないということでもあります。どうしてだろうかということから、1つは、いろいろ価値観の相違といますか、私は他人の世話になりたくないという気持ちもあろうと思いますが、それ以上に認知度が低い、PRが不足している。どんな制度があって、どんなことをやってくれるのか、やってもらえるのかということを知らないというか、そこら辺のところがわかっていないので利用できていないということが1つクローズアップしました。

それから、2つ目としまして、町会自治会関係、非常に活発に活動しております。しかし、麻生区の急激な人口増加、新しい人がたくさん入ってきているということもありまして、地域でのつながりの希薄化、それから、もう1つ支え合い、助け合いを必要とする人の情報がなかなか把握できないということがあります。希薄化と情報不足と言ったらいいいのでしょうか、というようなところが2つ目の課題としてクローズアップしました。

その他として、麻生区は丘陵地、山坂が大変多くありますので、やはり高齢者の生活の足、交通ということですね、いわゆるコミュニティバスの問題等についても提案がございました。それから、介護生活や単身高齢者の増加に伴うメンタルヘルスの問題、また、全国では3万人を超える自殺者が続いて出ているという現実を踏まえて、どうしたらいいのだろうかという点での部内での提案がございました。

それで、このような問題について詳しくは7ページに書いてありますけれども、これは飛ばしまして、このような課題があって、これをどのように解決するかということで、提言としてまとめたのが8ページでございます。

まずは広報活動です。先ほど申し上げましたように、社協や、社協に関連するボランティア活動団体等から広報の仕方に問題があるのではないということから、1つは、市政だよりを活用して、各サービスや既存制度を総合的にわかりやすく紹介する

広報。これは市政だよりの麻生区版を活用してやったらどうだろうかということが1つ。それから、もう1つは、それと同時に、もっと具体的に、困ったとき、どんなところに問い合わせたらいいのだろうかということで、困ったときのお助けガイドブック的なものを発行したらどうだろうかということ。これは保存版としてやったらどうだろうかという2つ目の提案でございます。

それから、3つ目として、そういうようなことをやっていくと同時に、やはり高齢者・障がい者等は、情報があっても、保存しておくことはなかなかできない人も多いのではないかとことから、ワンストップサービスといいますか、総合相談窓口を1カ所設置したらどうだろうかということ。そこへ相談すれば、あちこちたらい回しでなくて、必ず必要とする最終的な相談にあずかれるという総合相談窓口を設置することを、広報活動の3番目として提案させていただくわけでございます。

それから、2番目、「地域の絆づくり」ということで、この問題につきましては、昨年の3月11日の東日本大震災を契機に、各地域でもささえあいといいますか、絆づくりが再認識され、強調されてきているところであります。我々の中でも、この際だから、急遽災害時のささえあいと緊急対応というテーマにシフトしたらどうだろうかというような意見もありました。しかし、まずは日ごろの地域での人間関係ができていて初めてささえあいも可能と、まずは絆づくりが大切なのだということで、ささえあい、絆づくりにそういう意識を醸成するということから、1つは、町会自治会によるささえあい活動の運用展開を提言としていこうと。2つ目には、小地域での見守り・ささえあいを行うための仕組みづくり、3番目に、地域活動等を通じた地域交流の場の創出、この3項目を地域での絆づくり、ささえあいを有効に機能させるために提言していこうではないかということで決まりました。

先ほどの広報活動、それから、地域の絆づくりについてですけれども、9ページの参考資料1、参考資料2、それから具体的な展開方法のところ、この3つの項目をどのように具体化していくか、そのための手法はどうだろうということを、具体例を挙げて書いています。特に絆づくりににつきましては、先ほど申し上げました東日本大震災後、各地域で活発化しているのですが、ややもすると、絆づくりが必要だ、地域での絆が必要だという言葉だけが先行して、どうしたら絆ができるのだろうかという点は非常に難しいと思います。回り道、遠回りになるかもしれませんが、(ウ)地域活動を通じた地域交流の場、人と人とがたくさん顔を合わす機会、あいさつする機会、会話の機会、そういうところから始めて、お互いにわかり合えて絆が生まれるというような前提に立っています。

3番目に、担い手の発掘と育成です。町内会・自治会、ボランティア活動団体の地域活動、それから、民生委員の支援などの市民活動と、シニア世代を中心とした生涯学習、市民館のほうでございます。生涯学習を結合し、一体的に運営していくこと

で、地域活動の新たな担い手の育成や活動の活性化などが期待できる、これを期待しようということです。それには次のような取り組みの推進が必要になるのではないかと思います。1つには、生涯学習推進会議などを通じた地域人材育成指針策定と実施に向けた具体化、2つ目には、地域活動の担い手を意識した（仮称）成人学級推進委員会のようなものを新設する。3番目に、シニア世代の地域デビューに向けた入り口として、これまで区内で実施されてきている定年退職者セミナーも区民講師公開講座などを有効に活用する。こういう既存の制度等がありますので、そういうものを担い手の発掘、育成に利用できないだろうか、していきたいということです。

それから、4番目に、その他として、先ほど申し上げましたように、高齢者の交通手段の確保、これは生活にかかわる大きな課題でありまして、この解決手段の1つがコミュニティバスの運行です。現在、百合ヶ丘駅を中心に高石地区で山ゆり号が運行しています。このほかにも、細山、麻生台団地、岡上の各地区、交通不便地域としてコミュニティバスの運行が必要と考えられています。高齢者交通難民の緊急・切実な要望を実現するためにも、区が高石地区の先行事例を見守りながら、地域の要望を積極的にとらえて、区の町会連合会とも連携しながら、コミュニティバス運行の早期実現に向けた積極的な支援体制を築くことを期待したいと考えているところです。

また、コミュニティ・メンタルヘルス・ネットワークが機能するための取り組みについては、高齢者にとって喫緊かつ重要な課題であり、小地域でのささえあいと総合相談窓口設置がベースとなると考えられ、今後検討されることを我々としては期待するというような我々の部会の提案です。

引き続きまして、石井委員にバトンタッチをしたいと思います。

石井委員 それでは、何度かご説明させていただいているところがありますので、はしょってご説明させていただきます。

報告書の11ページが、我々文化部会のチームが中心となってまとめたものです。「区民が主体となって進める芸術・文化のまちづくり」ということで、これは麻生区らしさを体現する特徴的なものであり、第2期区民会議でも議題として、文化・芸術のまちづくりが取り上げられております。今回、3期でもこの取り組みを継続していくように、美化清掃ボランティアに関しては、アルテリッカの開催前に清掃を行っていただいたり、子どもの絵画展示に関しては文化協会に引き受けてもらって実施されています。今回、3期目としては、情報発信機能など、芸術・文化のまちづくりの検討を開始しようというところからスタートしております。上のほうに書いてありますけれども、麻生区には多くの芸術・文化の関係者が居住し、新百合ヶ丘駅周辺には多くの施設がございます。これらを活用して麻生音楽祭等いろいろな活動がされています。それらがどのような形で展開されているかということ、まずヒアリングして調べようということで、報告書の13ページに、ヒアリングした団体の概要を載せまし

た。年間を通じて5月から音楽祭、映画祭等イベントがあり、どのような形で実施されているかということをもとに調べる目的であったのですが、時間とマンパワーの関係から、8つの団体に絞ってヒアリングしました。個々の予算のところでも、区からそれぞれ支援事業費、あるいは助成金等を出されて、それぞれの個々の活動を応援されており麻生区らしさがあると思います。しかし、実際にヒアリングしてみると、多くの問題点が出てまいりました。結果については、資料の3－6で掲載させていただいておりますので、お読みいただければと思います。これらのヒアリング結果を踏まえて、今回、最終提言として14ページに3つまとめています。先ほどもお話ししたように、区のほうからも支援はいただいているのですが、それぞれの実施主体との連携が非常に期待される中で、区としてもぜひ受けとめていただきたいということで、区の文化行政の窓口として、ある程度担当者が継続、固定される形態を望みます。必ずしも区の職員に限定しなくてもよいので、市民の生活に根差し、継続性を持った行政の取り組みを求めたいということです。

それで、ヒアリングの結果挙げられた文化団体の練習場所の確保についても、この文化担当官の方を中心に情報の提供など、文化団体への振興と支援を行っていただける中心になっていただきたいというものがあります。

2番目に、仮称ですが、麻生文化会議の設置を提案します。多くの実施団体、主体から連携という形で要望が多く出されています。予算と人的資源も厳しい中、個々の広報活動では制約があるということで、お互いに区内で活動しているにもかかわらず、相互間の連携が非常に少ないというのが現状です。今後は、地元の芸術家や団体等のネットワークの強化、周辺施設との連携、区民、行政、学校、団体との顔が見える関係づくりに向けて、このような組織が切に望まれております。

3番目に、景観条例の見直しと弾力的な運用が取り上げられております。特に新百合ヶ丘駅周辺は、景観計画地区として非常に美しい整然とした町並みを保持していますけれども、芸術文化催事のにぎわい創出や広報活動には大きな制約になっております。ですので、どのように対応していったらいいか、今後関係者を交えた話し合いをぜひ持っていただきたいということが提言です。

それでは、12ページに戻っていただき、今後に向けてですが、今期は、先ほどお話しした実施主体にヒアリングをしました。来期はぜひ、今回実施できなかったアートセンター、文化会館、麻生市民交流館やまゆり等の施設提供者、あるいは麻生文化協会などの活動団体、大学等の教育機関へのヒアリングを実施して、その結果を踏まえて、区役所、市役所のご意見もお伺いして、より具体的な芸術・文化のまちづくりについて継続審議をされることを望みますということで、締めさせていただきます。

以上です。ありがとうございます。

武濤委員長 竹市部会長、石井委員、どうもありがとうございました。

それでは、続きまして、環境・緑化部会ですが、「循環型のまち・生ごみリサイクル」、それからもう1つ「グリーンアップ・里山ボランティア」、この2つのテーマがございました。こちらの取り組みと提言について、福田部会長のほうからお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

福田委員 それでは、環境・緑化部会の取り組み内容につきまして発表させていただきます。

15ページから順にご説明をさせていただきます。何度か全体会の場で経過につきましてはご説明を差し上げていますので、今回初めてまとめました提言を中心として発表させていただきます。

循環型のまち・生ごみリサイクルとしまして、さまざまな環境問題を踏まえ、第1期、第2期からのさまざまなエコなまち、循環型のまちという麻生区の特性を生かした身近な環境問題に対する取り組みということで、第3期の区民会議委員では、生ごみの減量やリサイクルを目的にした生ごみリサイクルに取り組みました。一番のポイントは、生ごみというのは、ごみではなく、資源だと、その資源を麻生区の特性である農、緑に返すことで、さらに循環型のよりよい地域社会をつくることのできるのではないかという形で取り組みを開始いたしました。

検討経過といたしまして、「エコのまち麻生」という言葉を今も使わせていただいたのですが、第2期の区民会議で作成した「麻生区エコカルテ」の概要版を第3期のほうでも継続いたしまして、編成という形で抜粋版を作成いたしました。この抜粋版を作成する中で、さらにこの生ごみのリサイクルに取り組むということがつながってきている、新たな第3期としての取り組みとして委員さんたちには、とてもいい勉強になったのかなとも考えております。

生ごみのリサイクルに関する取り組みに関しましては、川崎市のごみの現状、生ごみに関する取り組みの勉強会から開始しました。また、お隣の横浜市、同じ政令指定都市である人口の多い横浜市のほうでも、生ごみの回収のモデル事業をしていましたので、聞き取り調査を行いました。その学習会の内容を踏まえ、麻生区内の生ごみアンケートを麻生区区民会議で実施しました。生ごみリサイクルの推進にどのような取り組みが必要なのか、区民会議の審議や具体的な取り組みのためのアンケートを大々的に皆様のご協力を得てお願いさせていただきました。実施期間は今年の5月から7月という形で、各町内会、自治会、店舗の店頭や、区役所ロビーで実施しました。アンケート結果という形で資料版に取りまとめているので、後で見いただけるとありがたいです。

結果としましては、生ごみの減量については、多くの方が必要性を感じてくださっております。水切りや、少しでも減らそうと、食べ残し等をしないように、とにかく

無駄を出さないようにということで、それぞれの区民の皆様が取り組まれているということはわかりました。ただ、堆肥を使う人、使える人ということで、生ごみのリサイクルの取り組みの実際の認知度もまだまだ低いですし、実践している方は、畑をしていたり、お花に使いたいからと、使いたい人がしているというのが現状でして、環境問題として、誰でも取り組めるものとして、皆さんがやるという、現状ではまだそこまで到達できていないのだということがわかりました。そこで、生ごみリサイクルの普及には適切な広報と、堆肥を使う先があればぜひやってみたいというお声もいただきましたので、堆肥の有効活用が重要と考え、以下、5、6の取り組みを試行し、提言にまとめましたという形になります。

第1回区民会議フォーラムといいますのは、循環型のまち・生ごみリサイクルということで、広く区民の皆様にご存知いただくというテーマでフォーラムを開催しております。第4章に資料がありますので、こちらも後で見いただければと思います。

また、同時に、生ごみからできた堆肥、肥料でつくった花や野菜の写真展を、フォーラムの日に、こちらは第2回目として開催しました。2回目にしては、なかなか出展数が増えなかったのですが、少しずつこういう形で区民の皆様にご浸透して、知っていただけるということが広がっていければと考えております。

また、フォーラムの後に、皆様にご存知いただく、また、実際のモデル事業としての取り組みということとして、アンケートの結果から取りまとめたモデル事業として、生ごみリサイクルモデル事業を実施しました。昨年度の12月からという形で取り組みをしたのですが、さまざまな法律や条例等ありまして、生ごみを実際に公共の場で回収することができなかったもので、乾燥生ごみだけを限定して回収するという形になったことで、なかなか当初の目的どおりには回収ができませんでした。しかし、生ごみをそういう形でリサイクルで取り組もうとしているのだとか、生ごみのリサイクルの会場で、リサイクルの方法の展示物を出していたので、そちらのほうには広く区民の皆様、立ちどまってくださって、いろいろなご興味を示してもらえたという形で、一定の効果があったのかなと考えております。

というところの流れでして、今までやってきた試行、審議と取り組みをもとに提言をまとめさせていただきました。

提言のほうは、麻生区主催の生ごみリサイクル講習会の定期開催となります。モデル事業をして、先ほどの法律、条例等の問題から、生ごみの回収は実際少なかったのですが、生ごみリサイクルが必要だというのは皆様、口をそろえておっしゃってくださっています。ごみの3分の1を占めているわけですから、そういうところも皆様よく知ってくださっているということはあると。ただ、麻生区の区役所のロビーでやらせていただいたのですが、詳しく説明したり、失敗のないやり方や、より継続して繰

り返し楽しんでいただくコツというのがやはりあるのですが、そちらまでは説明がなかなかし切れないというのが実情です。一方、川崎市では、生ごみリサイクル講習会を、年2回、高津区において開催しているのですが、こちらはすごく人気で、毎回すぐ定員になってしまう。ですから、麻生区で畑もあって、お花もあって、お庭もあるのに、実際に取り組もうとするとなかなか定員いっぱいに入れないというもったいないお話をたくさん聞きます。川崎市の生ごみリサイクルリーダー派遣制度等がございますので、麻生区廃棄物減量指導員連絡協議会などともぜひ連携して、麻生区が主催する講習会を定期的に行うのであれば、身近なところで生ごみのリサイクルが広がっていくのではないかと考えております。

2番目としましては、写真展の継続実施となります。2回目の時もなかなか数が集まらずというところで苦労したのですが、継続実施することで、区民の中に、毎年やっているのと、夏のゴーヤなんか風物詩になったねという、そういう写真を貼っておくこと、続けることが大事だと思いますので、ぜひこちらを継続していただければと考えております。

3番目としまして、区独自の広報をぜひ検討いただきたいと考えております。先ほどの麻生区生ごみアンケート結果から、生ごみの減量・再資源化への実践というのが、まだまだ区民の一般的な取り組みとはなっていないという結果がわかりました。そのために広くまず知っていただくという普及啓発の取り組みが最重要課題であるということを痛切に感じています。また、先進的取り組み自治体への調査をしてわかったことの1つに、ごみを減量させるのだという強い意思と、特集号を組んで大々的に広報をかけるというところを勉強してきました。ごみに関しては、環境局を中心に、川崎市全体で取り組みを一生懸命されていますが、やはり特性というものは各区によって異なりますので、身近な実践例の紹介ですとか、麻生区だからこそできる生ごみの減量特集を作成し、市政だより21日版に折り込むのが一番効果的だとお聞きしていますので、ぜひご検討をお願いしたいと考えております。

4番目としまして、市民農園に優先枠というものですが、こちらは、各家庭での生ごみ処理機と、堆肥を一生懸命つくった方が、何かちょっと取り組める、頑張れる理由づけが欲しいなというところです。生ごみ肥料、生ごみリサイクルに取り組んでいる方が少し頑張ろうという位置づけとして、市民農園に優先枠というのを、ぜひ麻生区のほうで交渉していただければと考えております。優先枠があるということが重要で、数は特に明記してませんので、ぜひご検討ください。

また、最後となりますが、5番の「仮・あさお広場」とつけてあるのですが、ファーマーズマーケットの定期開催をぜひ、公共の場といいますか、麻生区としてやっていただきたい。もちろん市民団体等と協力をしながらということになるのですが、生ごみリサイクルのモデル事業の実施に際して、関連法規上の多くの制約がある

ということに本当に苦労しました。このような活動を拡大する意味から、運用の緩和策を講じることがやはり必要だろうと。作った堆肥を農産物と交換できるようなシステムを実際に実施している自治体もあります。生ごみ堆肥を1キロ持っていくと大根1本と替えられる、ファーマーズマーケットと青空市場のような仕組みづくりを実施できないだろうかと考えています。麻生区にはまだ多くの農家と、緑を守ろうとする団体が、たくさんおられますので、そのような団体に声かけして、協力いただけたところからぜひ取り組みればと考えています。そこに各家庭から持ち寄った堆肥を持ち込んで、その堆肥でつくった野菜を区民の皆様に食べていただくというような楽しいイベントとして、ファーマーズマーケットの開催をお願いできればと考えております。

以上が生ごみリサイクルの取り組みとなります。

続きまして、もう1つ「グリーンアップ・里山ボランティア」について説明をします。

麻生区には、川崎市内の緑の42%が集積しています。こちらで言う緑というのは農地も山林も含まれております。年々減少してはいますが、この財産をぜひ次の世代につなげたいということから、このテーマを選定しました。現在は地域住民やボランティアを中心に多くの団体が保全管理活動を行ってくださっています。運営協議会や里山の各会など、たくさんご紹介いただいたり、お世話になっているのですが、まだまだ手つかずの緑地がたくさん残っているということを勉強させていただきました。これらをぜひその団体が立ち上がるまでつなげていく活動ということで1つの事業としました。

また、川崎市の市民アンケートで、環境保全にぜひ協力したいという麻生区民が60%、7区の中で一番高かったと聞きましたので、これはモデル事業として成功できるのではないかなというのも1つの要因となりました。

そこで、区民と協働して、手つかずの緑地の保全活動を進め、区の特色である緑に親しみや愛着を持ってもらい、次の世代へつなげていこうという活動となります。

検討経過としては、関係各所との勉強会や研修に参加しまして、現在の保全活動の実態や課題、例えば民有地なんかは誰もが勝手に手を出すことができないですとか、民有地なのだけれども、実際には公共の緑と、地域の財産となっている場所ですとか、そのような話しも聞くことができました。

その結果の中から、川崎市が一生懸命予算をつけて、緑をたくさん保全するために買い取ってくれているが、その買った緑が実際には保全管理をするところまで手が回らないと、ぜひ区民の力で、地域の力で助けてほしいという言葉聞くことができました。地元の団体が設立するまでにつなぐ団体为目标とした取り組みとして、麻生区里山ボランティアというモデル事業を実施しました。昨年12月10日に実施したので

すが、実際にはほぼ2時間半程度の下草刈りや倒木の整理、不法投棄されたごみの片づけ等を実施しました。たった2時間半、20名ほどの人数で実施しただけでも、森全体が光を通すような森になったり、印象的にもとても明るい森になり、すごくわかりやすい成果が出たので、参加した方からは、概ねとても喜んでくださって、ぜひまた同様のモデル事業があったら参加したいというお返事をいただくことができました。

ただ、残念ながら、当初はモデル事業を3回ほど予定していたのですが、実際にはこの1回しかできなかったということがあります。実はもう1つは、栗木町内会に大々的な協力をいただいて、そちらで地元の方たちの協力のもと、手つかずのところをまずやろうというところがメインのモデル事業だったのですが、緊急的な整備が必要になったということで、予定していた候補地が整備されてしまい、残念ながら取り組みができなかったのです。実は提言の後に大々的に宣伝するのですが、このたび、モデル事業から発展した麻生の地域課題解決型の提案事業に里山ボランティアは継続しますので、そちらでまた栗木町内会のところは、ぜひやらせてもらおうと考えています。やはり地元の方たちに引き継いでいただくことが一番何よりも大切なので、このところを中心にモデル事業を計画しましたということです。

それでは、提言のほうに移らせていただきます。

提言、麻生区の特徴である自然環境、緑が宅地開発などで年々減少を続けていることを踏まえ、区内に残された貴重な緑の資源を次世代へと引き継いでいくための新しい取り組みが急がれます。そのために以下の2点を提言します。

1番、地域に限定されない里山ボランティアの構築。地元住民が地元の緑を保全管理していくことへの意識が定着し、さまざまな保全管理団体が活躍しています。一方、川崎市が特別緑地指定したにもかかわらず、管理の行き届かない緑地が多くあり、これらを区民、関係機関、行政と協働して保全していくシステムづくりを実施し、定着させていくことが必要ですと、今説明したとおりです。川崎市は予算をとってもらってくれています。ですから、すごくいい仕事をしてくれているので、ぜひ市民、区民として応援しようと、いいことをしてくれるときには大々的に応援しようという単純な発想の1つです。少しでも保全管理にお金がかからない分、緑を買うほうに回しますと言ってくだされれば、十分区民にも地域にも利益がございしますので、そういうことだったら一般市民として、区民として、大々的に協力しますという、いいモデルケースになるのではないかなというふうに考えております。また、緑の活動を通して、地域の人たちの顔を見ることが多くできますし、地域の絆づくり、より地域社会にいい貢献ができる事業としても期待していますという形になります。

それでは、大々的な宣伝のほうに移ります。2番の麻生区里山ボランティア事業の推進というところです。別刷りで資料のチラシを作ったのですが、このたび晴れてモデル事業から、主催団体、麻生の緑を守る会に引き継いでいただいたのですけれど

も、右側に第3期区民会議委員有志と書いてあるとおり、区民会議が最初の発祥として初めて事業化されたものということで、第3期となりますが、今までの中で一応新しい取り組みだと、審議、検討ではなくて、実際に事業を担うところまでつなげていったということで、認定されました。1年間かけて麻生区の手つかずの緑を移動しながら、地元の方たちを巻き込みながら新たな事業ができればいいという形で考えております。区民会議の取り組みがこれからも広く区民の方たちに周知してもらえるように取り組んでいければと考えております。区民会議委員有志と書いてありますので、申し込みにまだまだ期間がありますので、ぜひよろしくお願いいたします。

武濤委員長 福田部会長、ありがとうございました。まさに最後に、この提案事業のご説明をいただきまして、区民会議有志ということですので、ぜひ参加いただける方はよろしくをお願いします。

ということで、区民会議の報告書の構成から、各部会、専門部会の取り組みと提言につきまして、それぞれ部会長、委員の方々からお話いただきました。それぞれ委員の方々、お聞きになりながら振り返っていただいたと思うのですけれども、2年間、課題の把握から選定、そして、審議、取り組み、それから、フォーラムもございました。実にいろいろな活動をしてきたわけですが、それがこの60ページの冊子の中にまとまっているという形でございます。28ページと29ページに今の4つのテーマ、それから、テーマからの部会の提言、今ずっと説明していただいた提言がまとまっています。これが今回の報告書の1つの大きな特徴というか、柱であるというご説明もありました。そして、次のページ、30ページに「振り返って」ということで、申し送りというか、次期への引き継ぎもまとめております。2年間、活動してきました、このテーマはそれぞれ麻生区の特徴を生かしたものの、あるいは実際に大きなテーマである、人と人と心をつなぐ地域づくりということに対して非常に大切なテーマと提言であると思っております。この報告について、委員の皆様からご意見等ございましたら承りたいと思います。——よろしいですか。それでは、議事の1番目になりますけれども、「第3期区民会議報告書」についてご承認いただけますでしょうか。

〔拍手〕

武濤委員長 ありがとうございます。では、この報告書につきましてご承認いただきました。

(2) その他

武濤委員長 それでは、続きまして、2つ目の議事、その他に入ります。

きょうの審議事項としては、今の第3期区民会議報告書ということですが、その他の審議事項として、委員の皆様から審議したいという事項がございましたら、お願いします。特にございませんか。——それでは、第3期麻生区区民会議の議事を終了さ

せていただきます。

事務局 事務局からの連絡ですが、6月中に報告書を製本したものを、皆様方に送らせていただければと。また、その製本した報告書をもとに、委員と区長との意見交換会を改めて後日設けさせていただきますので、その日程等についてはまたご連絡をさせていただきます。

武濤委員長 ありがとうございます。

今お話のありましたように、意見交換会という形で、でき上がった報告書を中心に、また日程の設定、ご相談をさせていただきます。

ほかに提案等ありますでしょうか。——よろしいですか。

それでは、議事を終了します。

3 その他

第3期麻生区区民会議について意見・感想

武濤委員長 次第としましては、続きまして、3番目、その他に入らせていただきます。

第3期麻生区区民会議についての意見・感想というところです。

先ほどから報告にもあるように、3期、2年間の活動、人と人と心をつなぐ地域づくりというテーマで活動してきたわけですが、本当に大まとめの時になりました。区民会議全体会議としては今日が最後の機会になります。先ほど話しにもありましたように、報告書完成の折には、委員の皆様にお声かけしまして、区長との意見交換会を計画しておりますけれども、会議でこうやって一堂に会してお話というか、意見交換をするのはこれが最後の機会になります。この2年間を振り返ってのご意見、ご感想でも結構なのですが、それを委員の皆様からお話をいただきたいと思います。いかがでしょうか。ぜひご発言いただきたいと思います。

柳島副委員長 役所に対してちょっと辛口の話になると思うのですが、私の区民会議に推薦していただいた母体は交通対策協議会ということで、私は町連をやめる前は交通対策協議会の会長をしております、いろいろな会合にありまして、前の区長さんとよく話したのですが、交通対策協議会の中に交通母の会というのがあるのです。これを区長によく言われて、「母の会ばかりではなくて、交通高齢者の会をつくったらどうだ」という話を、半分冗談に言われていたのだと思います。私が今期の第3期に、今まで交対協から区民会議の委員に推薦された人は誰もいないので、私が推薦されたのは、高齢者の交通を考えなければいけないのかなと思って、私は最初、コミュニティバスのことについて一生懸命やろうと思っていたのです。しかし、ご意見、みんな、衆寡敵せず、コミュニティバスの問題は後でいいということで、ここに提言されているようなことを重点的にやるということになり、別にそれについて私は異議があるわけではないのですが、コミュニティバスのことについて何回も何回も私は意見書を出

したのです。

先ほどありましたように、高齢者の交通手段の確保というのは、政策にかかわる大きな課題で、その解決の1つとして、コミュニティバスの運行があります。これについて私は、まちづくりの交通政策室が主体となってやって、区でやることではないということを言われまして、私がいろいろ提案すると、事務局のほうから、市の実施している「地域交通の手引き」に基づいてやらないと。これはどういうことかという、交通手段のないお年寄りがいても別に区や市が積極的にかかわってくれないので、住民の人が主体的に熱心にやらないとだめだということを書いてあるわけなのです。それでやりまして、手順というのがステップゼロ。ステップゼロは、1、2、3のゼロです。地域住民等の検討体制を構築するというステップゼロから、本格コミュニティバスの運行まで、ステップ6というのまであるのですが、これをやっていたのでは、2年も3年もかかってしまうわけですね。今、山ゆり号を見てもらってもわかるように、何年もかかってやっとできた。しかも、民間に任せられているから、私も百合丘に住んでいまして、百合丘の駅のところへ行くと、時刻表を見ると本当にぼつんぼつん。今日も見たのですが、お客さんが1人降りて、だれも乗っていないということで、これは私は区の事業としてやれないものかというようなことを、前の区長なんかはそう言われておられたので、私はそのつもりで提案したのですが、それでお金の問題は、市の地域の問題で5500万円のお金がありますよね。あれの中から少し出せないのか、そういう型破りの提言をしたら、事務局から早速、交通の手引ということで、そんなことは役所の仕事としてできるわけないということなのです。この間、私は一番最後に、特にコミュニティバスの運行に区が積極的に取り組むべきであるという提言を出したのですが、区長はごらんになっているかどうかわかりませんが、今ごろになって、先ほど説明があったように、高石地区はそれで終わりましたが、あと、細山とか、岡上とか、麻生台団地なんかは早急にコミュニティバスの運行をしてさしあげないと、本当に年寄りはいき物にも病院にも行けない、緊急事態になっております。

それで、私の一番言いたいのは、市が国に向かって地方分権、地方分権と言って、国対川崎市。だから、私は川崎市と区も対で、そういう図式のとおりで、区でもそういうことは、区の事情によって運用できるのではないか。しかも、麻生区は17万人。私はいつも参考にしているのは、隣の市、稲城市、これは17万人ぐらいですが、循環バスまで運転して、しかも、はるひ野のほうまで運行してやっているということで、17万都市で区長が何もできないというのは、市の方針にできないというのはちょっとおかしいのではないかと。それは予算がなければやらなければいいですが、5500万円、もうちょっと検討する必要があるのではないかと。私は町連時代も区に対して、予算の話が来るとき、我々の意見も聞いてくれと要望しましたが、全然無視されてしま

いました。中野さんという区長がおられた時代にも、中島さんから意見書が出ているはずで、そういう点で、町連の意見を聞いてもらって、区長に相当な権限を与えてもらって、その区その区独自の仕事をしてもらいたいということで、コミュニティバスの運行について積極的に区が取り組んでいただきたいと考えております。

武濤委員長 今のお話は、高齢者の交通手段の確保に関する行政の支援というところに付随した意見だと思います。

区長 今すぐにお答えというのは難しいのですが、コミュニティバスのことは別にしても、柳島副委員長おっしゃった、都市内分権とか、いろいろな言い方もしていますが、方向性とか考えていることは、川崎市もちろんそういうことでございます。ただ、制度的に突き詰めていくと、これは私が申し上げるまでもございませんけれども、東京23区の特別区と横浜とか川崎の指定都市の行政区というのは位置づけが違うものでございますので、両方のいいところとか、あるいはデメリットというのは余りないかもしれませんが、実際やっていく場合はその辺どういうふうに考えていって、どういう形で各区へ財源なり権限なり移譲していくかになるのだと思うのです。コミュニティバスの関係ですと、これは柳島副委員長が実情を一番よくご存じで、ある面では地域の区の状況を踏まえながら、区長なり区役所なりがそれぞれ独自で対応していくという考え方が1つあると思います。川崎の場合は現状の中で、全体的な市の方針として、手引を差し上げたりしています。全市統一の中でまず地域が主体でいろいろ体制を作っていただいたり、行政も初期投資の部分ですとか、高齢者の方の補助の部分、一定の調整はしていこうということでございます。これからコミュニティ交通も含めて、区の権限、どうしていったらいいのか。交通のことですと、民営のバスももちろんございますけれども、公営バス、市営バス、公営事業として川崎市もやっているわけでございますので、その辺の切り分けですとか、どういう位置づけにしていくですとか、検討する課題はいろいろあると思います。貴重なご意見と言うと失礼ですが、ポイントの1つになると思いますので、十分踏まえて関係の局ともいろいろ議論、協議していきたいと思っております。

武濤委員長 それでは、ほかにご意見、ご感想ということですが、せっかく委員の皆様、これだけの方が来ていただいていて、最後の全体会議ということなので、時間等はあるのですが、本当に一言ずつお声を聞ければなと思うのですが、ご感想ということで、2年間、1つのまとまりでございますので、本当に一言で結構ですが、お願いしたいと思います。今、柳島副委員長がお話ししていただいたので、天野副委員長から時計回りにいかがでしょうか。お願いできますでしょうか。よろしくお願いいたします。

天野副委員長 天野です。2年間なのですが、2期からさせていただいたので、合計4年間、本当にお世話になりました。ありがとうございます。金光部会長から名前が出て

しましたが、今回の報告書は、皆さんの思いがとても詰まった、30ページ削減したと言っているんですが、文字数としては1文字も削減していないのではないかと、文字の多い報告書になって、それぞれの皆さんの活動、思いが詰まっているのだなということで、決して私の名前が出るとは思っていなかったのですが、それは取り消しということで。

2期からやってきた、そして、3期に参加させていただいた人間としては、何か2期の思いを伝えなくてはいけないのではないかと、2期のやり方を効率よく3期に引き継いだほうがこの辺は結果が出しやすいのではないかと、そんなことを考えてしまって、余計プレッシャーになったり、かたくなったり、失敗も、よかった面もいろいろありました。ただ、区民会議をやると、自分の活動分野だけではない、違う分野のいろいろな方たちと知り合えるので。4期の委員はもう決まっているのですかね。4期も生き生きと、そして、引き継ぎをスムーズにして、充実した2年間にしていきたいと思いながら、バトンタッチします。

飯塚委員 区民まつりで、私、マイクを持って、皆さんの前でなかなか言いにくいですね。やはり町連をやっていると、あちこち用事ができてしまって、欠席がちで、今日、たまたま空いていまして、まとまったのを皆さんからの説明を聞きました。素晴らしいものができました。恐らくこれを今度は実行していくには、大変かなと思っています。

それと、今年は区制30周年を迎えておりますので、また皆さんのお力もお借りして進めていきたいと思えます。とりあえず7月1日が初めて、12月まではいろいろなイベントがあるそうです。ひとつよろしく願いいたします。

石井委員 私はNPOのしんゆり・芸術のまちづくりの理事として参画させていただきました。今回、文化の部分させていただいたのですけれども、地域交流ということで、高齢者、福祉、この分野の勉強をさせていただけたということで、麻生福祉まつりもそうなのでも、文化と福祉を今後つなげていけるような形で、本当にいろいろな勉強をさせていただきましたので、感謝しております。ありがとうございます。

植木委員 植木でございます。議事の際に質問すればよかったのかなと思うのですけれども、25日の午前中までにご意見があったら云々というお話がありましたよね。その件について確認がされていなかったように思うのですけれども。

事務局 事務局のほうでまとめさせていただいて、また後ほど委員長、企画部会長などに確認いたします。

植木委員 それはこの場で報告をしなくていいのですか。

事務局 内容によりますけれども、細かい話になりますと長くなってしまいますので、細かい話であれば事務局と後ほどお願いします。

植木委員 これ自体が承認されたということではなくて、いろいろ字句の変更とか、そういうのがあるというぐらいに理解していいのですね。

事務局 そのとおりでございます。先ほど冒頭にお話しいただきましたように、まだイラストが入っていなかったり、写真だとか、そういう細かいことがあるのですが、大枠については本日お出ししたものでご承認いただいたということでございます。

植木委員 それは企画部会で確認してもらおうということでいいのですね。

事務局 うちのほうでいただきまして、各委員長等と確認させていただきます。

植木委員 わかりました。

あと、個人としての感想でございますけれども、私は地域の課題というのは出尽くしているなど感じておまして、それを具体的につぶすのはやっぱり人だと思うのですね。そういった面で、誰がという視点を会議の中で持つ必要があるのではないかと提案をさせていただきましたけれども、その取り組みについては、来年度にお任せしようということで、ぜひそういった視点を持ちながら、この区民会議のいろいろな提案を進めていただきたいと思います。

今回の提案をずっと眺めてみますと、新しい組織を作ってくださいという提案と、それから、今まである組織の中でもう少し何か知恵とかいろいろなものを加えたら、麻生区のためにいいのではないかというような点、2つに絞られるのではないかと考えています。そういった面で、ちょっと手を加えたらという提案については、具体的に来年度ぜひ取り組みをいただきたいなと思っているのが私の印象でございます。

魚本委員 麻生区社会福祉協議会から推薦されて出ました魚本と申します。この区民会議に社協がどういうふうにかかわったらいいいのかというのが、実は「第3期を振り返って」の「オリエンテーションの必要性」のところで、ここでちょっとお話ししていただいたらよかったのになと、私はここでどういうふうにしたらいいいのだろうというのをずっと悩みながらいました。お話の中でやっぱり社協のことが知られていないということがありまして、これは少し社協のことを宣伝したらいいのかなと。それから、広報のところでは、社協のところでは、広報啓発部会というのがありまして、広報誌「ほほえみ」というのを年3回発行しているのですが、これが知られていなかった。各戸配付しているにもかかわらず、町会長さんたちもご存じなかった。フォーラムの時にわかったのですけれども。そんなことがあって、ちょっとがっかりしたのです。それから、皆さんの賛助会費で運営されているということがわからなくて、行政からお金がおりていて、それで動いているのだろうと思われていたとか、そんなこともありまして。そうではなくて、皆様の温かい賛助会、町連の方のご協力で集めていただいているのですけれども、それで運営をされている。それから、社協の職員というのは5、6人しかなくて、あとはみんな、区民がやっていることなのです。それでささえあい事業というのも一応コアにはなっておりますが、受付は職員はしますけれど

も、実際動くのはやっぱり地域の方たちであり、今、本当に地域の方たちが自治会の方、町会の方、それぞれのところでささえあい事業をやっていたいて、そのところに民生委員さんがうまくかかわって、そんな方向になってきているのがちょっと嬉しいなということです。そのところをもう少し深められたらよかったのかもしれないのですけれども、やっぱり時間がなかったことがありまして、竹市委員長がとても苦勞されていたなという感じがいたしまして、もう少し私もできたらよかったのですけれども。障がいの子を抱えているものですから、9時4時の間の協力しかできなかったのもう少し時間があつたらよかったなと思っております。反省しております。

大高委員 田園調布学園大学の大高でございます。私は個人的に生ごみを使った堆肥肥料で野菜などを作っておりまして、そんなこともありまして、環境・緑化部会の一員に加えていただき、とても充実した2年間でございました。委員の方、特に公募推薦の委員の方の熱意には本当に敬服いたしました。

あと、こちらの報告書の52ページですか、実は私は八王子市民でございまして、ごみ減量特集号、「区民会議ではこの広報誌のわかりやすさに注目」と書いていただいておりますが、日経の「グローカル」の先月号でしたか、サステナブル調査という調査の結果、八王子が全国で17位ということで、市民は知らなかったのですけれども、意外と高いかなということで驚いた次第なのですね。市域の57%が緑、市街化調整区域といいますか、緑地です。あと、ごみに関しても、一例なののですけれども、生ごみの堆肥化、これは市民からの提言ではなくて、行政のほうで進んで生ごみを1週間に1回集めると、それを市のほうで堆肥化しますと、希望の10セットぐらいでしたでしょうか、集まれば取りにいきます的なことで、これが今年度で2年目になります。あとは天野さんが講師として八王子市にも出向かれまして、ダンボールコンポストの普及に取り組んでいただいたのですが、お金のかかる電動のごみ処理機はもちろん八王子は助成しておりますが、天野さんの提唱されているダンボールコンポストに対しても今年度から市で補助しようということで、行政のほうで小回りのきいた積極的に取り組んでいるかなということも感じました。こういったことも区民会議の一員に加えていただいたがためにわかったような次第です。

あと、最後になりますけれども、麻生区里山ボランティア事業ですか、継続的に作業されたということで、私は住まいは八王子ですけれども、今後、参加させていただきたいと思っております。2年間、ありがとうございました。

金光委員 金光と申します。2年間、区長推薦ということで、初めて区民会議に参加させていただいたのですが、印象としては、この区民会議そのものが、余り区民の方々に認知されていない。我々が一生懸命やっている活動は、何をやっているのかということで、地元へ戻りますと、区民会議でやっているのだ、何をやっているのだというこ

とで、細かく説明しないと理解してもらえないということで、これからの我々の区民会議の活動そのものを、もっと区民の方々に知ってもらう努力が必要になってくるのではないかと思います。やっている事業そのものは非常に素晴らしいことを我々はやったというふうに自負しているのですけれども、それがなかなか広がっていかない。事業というものは広げていくことが必要であって、どれだけの理解者を作っていくかということがあって初めてこれが区の中で定着して実行されていくのだと思うのですけれども、その辺のところは2年間やったところでは不十分だったなという形で私の印象に残っています。これは我々のやり方がまずかったのか、反省する点があるのですけれども、次回やる方々がもう少し浸透するような方法を考えていただければ。それともう1つ、他の市民団体との協働というものがうまく組まれれば、もうちょっとこの活動が多くの人たちに理解し、そして、協賛する人たちが生まれてくるのではないかと思います。

それともう1つ感じたのは、区民会議へ来て、皆さん方、知らない公募の方々、あるいは推薦の方々が集まって、議題を抽出したわけですが、この議題の抽出の仕方が必ずしも本当に住民に必要な課題の抽出ができたのかなと、本当のニーズに合った課題の抽出ができたのか、あるいは区がこれから推し進めていくことで重要な課題と合致したものがちゃんと組み合わせあって、そして、それをどういうふうに区民の間に浸透させていくかという形での課題選定ができたのかどうかということになると、僕も2年間やってみて、その辺については非常に強い疑問を感じています。

生ごみのことを私2年間非常に勉強させていただきました。それまでは全然わからなかったわけですね。コンポストなんて名前も知らなかったわけです。それほど無関心な形で入ってきましたから、天野さんが言っていることを理解することに随分苦労しながら会議に加わっていましたが、やはり今後課題の選出ということについては、区政が重要課題を持たれて、それで活動されているわけで、むしろ区側がこれから区の中で一番浸透したい課題は何なのだというような問題をオープンにして、そして、それに対して区民の方が、これはやってみたいと、区民がどういうふうに浸透させたいのかと、行政の考え方を広く一般の区民の人たちにわからせるためにはどういうやり方をしたらいいかと、そんなような形で、一般の人たちに意見を求めて、レポートみたいなものを提出させて、それで、それを見た上で人を集めて、審議させるということのほうが、より濃厚な議論ができて、それが実際に区政に反映されて、実行されていくのではないかと思います。

今のやり方であれば、こじんまりとしてやって、それ以上発展していかない。それがやっぱり発展させて、継続していかないと、事業は続かないわけですよ。今回、グリーンアップ里山ボランティアのほうで、皆さん方が提案型事業のほうへ提案して、これをさらに自分たちで実行していく。区民会議から離れて1つの事業でやってい

く。こういう形で動くということは、僕は素晴らしかったなと思う。そういうことを考えて、それをさらに実行していくという考え方、あるいはそういうふうにしてでもこれを麻生区の中で浸透させたいという努力をする人がこれから区民会議を通して多く生まれてくるようになれば、この区民会議の存在というのは広く皆さん方に知られてくるのではないかと思います。

区民会議は、区長に対して提案するだけではなくて、区民会議の中から市民活動を展開していくようなリーダーをいかに多く作っていくかということが、また区民会議にとって非常に重要なことなのではないかと思います。ここにいらっしゃる方々は皆さんいろいろなところで別のところの市民活動を展開されている方ですけれども、さらにそういう形でリーダーシップをとって、この区民会議でやったことをさらに広めていくということをそれぞれの方々が目指していくような形に進んでいけば、この区民会議は本当に実りあるものへ進んでいくのではないかなと、僕はそう思っています。

鴨志田委員 鴨志田です。私は実は余り参加できなくて、皆様には大変ご迷惑をかけたと思います。この場を借りて、どうもごめんなさい。

実は私は2期、3期とやらせていただいて、2期のときには子育てというか、こども文化センターとか、そういうところをいろいろ回らせていただいて、今回の3期では逆に老人問題と。よく考えたら、両方でできれば一番いいのかなと思ひまして、前回が子ども、今回は老人ではなくて、できたら同時進行でこういうものは進めたほうが、本来は区のためにはいいのではないかとちょっと感じております。

あと、2期のときにやったアルテリッカのときの絵を飾ったり、そういうのが、私なんかから今度菅原先生の文化協会に引き継いでいただいて、どうもありがとうございます。それがちゃんとその時のものが今でも続くようなシステムがちょうど2期から3期にかけてできたということは、本当にありがたいと思っております。

あと、文化芸術というか、私もKirara@という、イルミネーションの副実行委員長とかをやらせていただいて、また皆さんにその辺の意見を、こうしたほうがもっといいのではないかと、そういうのをもう少し突っ込んで聞けたらよかったかなというのが今の反省です。

あと、もう1つ、私、まだ父も農業をやっております、どちらかというと、そっちのほうが専門ではないかと。私は高校、大学と農業関係のことをずっとやっておりましたので、本来はそっちなのですけども、やっぱり商店街ということで推薦されているので、今みたいなことになったと思っております。4年間、皆さんにはお世話になりました。ご迷惑をかけて済みませんでした。またよろしく願いいたします。

菅原委員 文化協会から出ております菅原でございます。私は全体的なことで気がついてることを述べさせていただこうと思います。

実は7月から受けているわけなのですね。6月で私たち今回終わりなのですね。そうすると、7月から受けているのですけれども、実際動いたのは10月からなのですよ。委員長を選ぶとか何か、副委員長を選ぶとか、選出に1カ月もかかって。7月は説明ばかりでしたよね。8月は今度委員長選出といって1カ月かかったのですよね。そして、また8月は何もなくて、企画部会が年間の流れをつくったのでしょ。実際、各部会が動いたのは11月なのです。だから、7、8、9、10、この4カ月間は、討議は何もしていなかったのですよね。そうして、今、5月ですね。5月には報告書ができ上がっちゃっているわけでしょう。6月には配られるわけですから。実際は4月の末には検討が終わっているのです。そうすると、検討なんていうのは、そそくさと忙しくやって、その中がまた分かれていますからね。私は高齢者部会のほうもしたり、文化のほうもしたりとか、みんなそうなわけですよ。だから、どの方もそうだと思うのですが、何かせせこましく、せせこましくて。そして、こういう場面では、一切討議がないものですから、ただの形式なのですよ。今日は議員の皆さんも来てくださっていますが、ここで討議した声は多分聞いていらっやらないと思う。私たちは何を討議しているのかは、本当はみんな個々の皆さんも何も聞いていないと思いますし、市民の方ももしここに傍聴にいらしても、この区民会議は何も討議しない、ただ発表があるだけなのです。いつも発表だけです。だから、発表を聞いて、自分たちの発表のほうだから、質問というのはできないから、何もどこもないわけです。この運営は何とかならんものかなと。もう少し全体でも、ほかのところについてももっと意見が述べられたらいいかなと思うし、スタートをもっと早めて、11月になって初めて第1回の部会が開かれる。もうちょっと何とかこのスケジュールを見直したらいいのかなというふうに思っていますので、ちょっと意見、思ったことを述べさせていただきました。私は2期やらせていただきました。どうもありがとうございます。

高瀬委員 環境・緑化部会の高瀬と申します。私は美化運動のほうから推薦されてまいりました。私は3期目、途中から入ったもので、皆さん何をやっているのかよく把握できなかったのですけれども、慣れてくるに従っていろいろわかってきたのです。本当に何もできない状態でした。ただ、環境・緑化、私は山のほうに住んでいて、緑が多いし、環境もいいところで、初めはぴんと来なかったですね。私は早野というところなのですけれども、私の上のほうは山もありますけれども、もっと奥のほうへ行きますと、霊園がありますね。あの中に入ったら、飛行機の音は聞こえます。車の音も人の話し声も全然聞こえませんよ。人間がおかしくなってしまうような場所でございます。人間もおくれていますけど。百合丘のこの辺に住んでいる方は、まちの真ん中に住んでいる人は、私のほうは不便でございますけれども、まだタヌキだ、ハクビシンだ、そういうものがいつも畑のほうをうろうろしているところでござ

います。こういうことをやる前に、10年ぐらいから見てみても、道路の端とか、田んぼの中とか、ごみを捨てる人がいなくなって、今現在きれいになりました。やはり時代で、そういう空き缶とか何かを捨てる人もいなくなるし、やっぱり町会できれいにしておくところはごみを捨てていきませんよね。散らかっているところへみんな捨てていってしまうのですけどね。余りいろいろなことを皆さんに協力できなくて、まことに申しわけありませんでした。

武濤委員長 委員の皆様、ちょっと時間が押してきたので、一言二言ぐらいで、よろしくお願いいたします。

竹市委員 大体私の番のときは時間がどうのいい。今日も部会の報告発表が7分で終われと言われてましたので、それはともかくとして。このルールはきちっと守らなければいかん。それこそ、飯塚会長が最初の人に、余り長引く会議や何かはという、時間は厳守だと言われたのをよく頭にたたき込んで覚えております。

私は区長推薦といいますか、麻生市民交流館やまゆりを運営しておりますNPO法人あさお市民活動サポートセンターの理事長ということで恐らく区長が推薦されたと思います。ですから、ここでのテーマのど真ん中におるのかなという気もして、地域交流・文化部会の部会長を引き受けさせていただきましたけれども、甚だ力不足で、地域交流・文化部会、10名の皆さんには大変迷惑をかけて、この席でおわび申し上げます。

それで、私の感想でございます。それこそ短い期間ですけれども、10名、総計20名ですけれども、地域の課題に対する各委員の認識の温度差といいますか、認識の違い、これが非常に大きいなということをつくづく感じました。今回、今日の「第3期を振り返って」というところにも書いてありますけれども、やはりこれだけの認識の差があると、最初にオリエンテーションとか、かなり共通認識を図るための勉強会等が必要になるのと違うかなというふうに思ったりしています。

例えば地域ということで考えた場合、やっぱり区レベルでの地域なのか、町会自治会単位の区レベルなのか。そうではなくて、それこそ隣近所、ごみ箱を中心にした10軒、20軒の地域なのか、おのおの人によって違いますし、そんなことを意識していない人もかなり多かったのかなと思ひまして。多少残念なのは、そこら辺で歯車が合わなかったということかと思ひます。特に最初のオリエンテーションはぜひ引き継いでいっていただきたい。二言以上になって済みません。

田中委員 田中です。今、区民会議の認知率が20%程度ということで、認知率を高めるために、何よりインパクトの大きいテーマで成果を上げるということをもっと志向していく必要があると思います。そのためには、戦略的な取り組みというものが必要だと思います。例えばトヨタのプリウスの開発といったような、成果も大きいけれども、リスクも大きい。そういうテーマに目の色を変えて取り組んで初めて実現する、そう

というような形を志向していくということをもっと考えるべきではないかと思います。

そんなことを言ったらちょっとずれているんじゃないのと思われる方も多いかもしれないのですけれども、例えば具体的な例で申しますと、現在自殺者が年間3万人を超えておりますが、これは人口10万人にしますと年間24人という数字になります。これをもし9.9人以下、1桁にできれば、全国の自治体から注目されると思います。そうすれば当然認知率は大きく上がるということになるのではないかと。あるいは妊娠中絶が年間50万人……。

武濤委員長 田中委員、ごめんなさい。私の皆さんへのお願いの仕方が弱かったのと、全体の流れのとり方が申しわけなかったのですけれども簡潔にお願いします。

田中委員 あと、食べ残しが年間1000万トンあります。これは米の生産量と漁獲量の合計と同じだと、そういう現実認識を踏まえて問題意識を共有化していく必要があるのではないかと思います。

土井委員 地域交流部会の土井です。私は推薦ではなくて公募で論文を書いて参加させていただきました。少しでも地元のためというか、地元にかかわり合いを持ちたいなということで、期待したのですけれども、ちょっと外れました。その理由は、先ほどからいろいろ出ていますけれども、私の感じでは、2年間のうちの4分の3でテーマを絞り、現状の問題は何か、それをやって、やっとまとまったら、すぐ報告書の作成の段階に入ってしまった。私が議論を持ちたかったのは、問題点を絞って、その解決はどうすべきなのか、そういう議論が全くできなかったというのは非常に残念に思っています。4期にはそういうことがないようにしていただきたいと感じます。

東川委員 環境・緑化部会の東川でございます。私は公募でございまして、麻生区は緑が多いということと、ごみは資源ということから、ごみの徹底的な分別と緑の保全という立場から環境・緑化部会で十分なる活動はできなかったのですが、それなりの提案はさせていただいたと思っております。1期から3期において色々と提案されているので、誰がどのように実行していくかが重要で、4期の方々に特にそのことを期待したいと思っております。

福田委員 環境・緑化部会の福田と申します。公募なので、2年間勉強させていただきました。先ほどたくさん喋りましたので、特にございません。本来は福祉施設の職員なもので、地域交流ですとか、終わった後は本職のほうで、皆さんの顔とお名前、覚えさせていただきましたので、お願いに上がりますので、ぜひともよろしく願いいたします。

山崎委員 最後になりました山崎です。子ども会から出ております。ただ、どこに所属するのかと思ったら、なかったものですから、環境・緑化部会に入りました。というのは、麻生区は緑が里地も含めて42%という話ですが、なかなかこれ、大変なものだと。これを維持していくのは大変だろうと思います。今後、こういうものをもっと考

えていく必要を感じています。

それから、もう1つ、大高委員からありました、八王子ではそういう大変立派なことをやって、麻生区でも王禅寺焼却炉を何とか生ごみをただ燃やすのではなくて、炉を1つでも止めるぐらいの気持ちがないとどんどんどんどん減っていかない。1つは、ミックスペーパーができたということで、大変大きな成果だろうと。今後また違うものが出てくる。そうではなくて、生ごみをどうするかということをやっぱり考えていかないといけない。そのためには王禅寺の焼却炉に何かを作って、そういうことによって肥料化して、それを売るということになれば市のお金になるのではないかな。多少でもなればいいのだろうと。僕はそう思っております。

武濤委員長 どうもありがとうございました。私の進行がまずいというか、ご説明とお願いが弱くて申しわけございません。特に後半でお話しいただきました委員の皆さん、恐縮でございます。本当にありがとうございました。2年間、お疲れさまでございました。

それでは、今日、またお忙しい中、参与の先生方に来ていただいております。区民会議へのご助言等ございましたらお願いしたいと思います。

相原参与からお願いいたします。

相原参与 皆さん、お疲れさまでございました。参与を仰せつかっております県会議員の相原でございます。

まず、今日、ご意見をお伺いして、区民会議そのものや運営方法にも若干問題があるのだなということを私も認識させていただきました。この点についてはぜひ第4期で継承、発展をしていただければと思います。素晴らしい区長さん以下、事務局の方がそろっておりますので、間違いがないと思っております。

また、区民会議の報告書、今日、私も初めて見させていただいたので、皆様のお話を聞きながら、1ページ目から一生懸命読み始めたのですが、まだ21ページの途中までしか読み終わっていませんので、今晚残りは全部読もうと思います。読み終わったときに、大変知的な刺激が受けられることを期待しておきたいと思います。2年間、お疲れさまでございました。

武濤委員長 ありがとうございます。

それでは、月本参与、お願いいたします。

月本参与 皆さん、お疲れさまでした。私も今日、委員会等々いろいろありまして、遅参をいたしましたことをおわび申し上げます。2年間、皆様方のご努力の成果ということで、本日、この報告書を拝見させていただきました。私はおくれてきたので、まだ18ページまでしか読んでいないのですが、今、自助、共助、公助と言われる中で、生ごみのリサイクルのところがちょうど18ページで終わっていたので、感想を申し上げますと、自助、共助というところの範囲で地域の皆さんで解決できるところを

モデル事業として進められて、そして、市民農園に優先枠をつけるなど、そういう意味では、公の部分でしかできないところをかえって今度は区民会議のほうからご提言をいただいたということで、自助、共助というもの、言葉はたくさん先行しているのですけれども、それをモデル事業として提言まで結びつけていただいているというのは、非常に大きな成果だなと思います。先ほど来、交通の話なんかでも、都市内分権の話とかも出ていますし、今、相原参与からも、区民会議の運営方法のお話等々も出ていましたけれども、ただ、区民会議条例の中でどうしても縛られて、委員の皆様の中では、なかなかやりにくいとか、あるいは少しできなかったということも多々あるかと思いますので、そういったところは都市内分権の中での区民会議の位置づけというのは非常に大きなものであると認識しておりますので、ぜひまた皆様方の今後とも地域のためにいろいろご助言をいただきながら、素晴らしい麻生区にできるようにお力添えをいただければと思います。2年間、本当にお疲れさまでした。

武濤委員長 ありがとうございます。

それでは、木庭参与からお願いいたします。

木庭参与 私も今日は遅参いたしました、大変失礼いたしました。私は皆様の感想をお聞きするのが精いっぱい、この報告書をじっくり拝見していないのですけれども、皆様の報告内容を伺っていた段階でも、とても勉強になりました。例えば金光さんがおっしゃっていた活動そのものを知ってもらう努力がまず必要であろうということとか、課題そのものが区民のニーズに本当に合っているのかとか、そのほか皆様もいろいろと感想をおっしゃっていましたけれども、やはり皆さん、同じことを考えながら、この部会に参加しておられたのだなと感じました。1期、2期、3期と今まで来られて、これから4期が今年度から始まるということなのですが、やはり皆様がお考えになられたいい点、悪い点——悪い点と言ったら申しわけないかもしれませんが、問題点として挙げられた点が、ぜひ4期以降は改善されて、さらによい区民会議が開けるように、私の立場でできることがありましたらしっかりと取り組んでまいりたいと思いますし、今皆様からのご感想の中でもいろいろと提言をいただいた山ゆり号の問題ですとか、不法投棄の問題、たくさんあって、1つ1つ挙げていくのは時間がないので差し控えさせていただきますが、そういったことも私たち市議会議員という立場で後押しできることがあれば、しっかりと取り組んでまいりたいと思います。私たちにもご助言いただきますように、今後ともよろしくお願いいたします。2年間、お疲れさまでした。

武濤委員長 どうもありがとうございます。参与の皆様、お忙しい中、区民会議にご出席いただきまして、いろいろなアドバイスやご助言をいただきまして、どうもありがとうございました。

天野副委員長 時間がない中、申しわけありません。環境・緑化部会の報告の中で、1点

訂正させていただきたいのですが、19ページの一番上の行なのですけれども、麻生区に42%の緑地があると理解されて山崎委員が意見を述べたのではないかとあって、そこだけちょっと訂正ではなく、確認させていただきたいのですが。川崎市の緑地の42%が麻生区にありますということです。

以上です。確認させていただきました。

武濤委員長 確認しますが、川崎市内の緑の42%が麻生区にあるということですね。

菅原委員 川崎市内の緑の42%が麻生区に集積していますと書いてあればいいですね。そこを言葉を入れかえれば。「には」とやらないで、「に」として。

武濤委員長 そういう形でよろしいですかね。

それでは、今日の審議を踏まえまして、最後に、瀧峠区長からごあいさつをお願いしたいと思います。

区長 ありがとうございます。実質的には2年間、任期は来月いっぱいございますし、私への提言、あるいは意見交換の場も改めてご設定をいただくということでございますけれども、実質的な全体会議としては今日が最後ということで、本当に2年間にわたりまして、この報告書も出ていますけれども、全体会議、あるいは部会の開催の状況、経過、掲載されていますが、これ以外にも実質的な討議、打ち合わせ等々、毎週のようにされているというふうに伺っておりますので、数十回に及ぶというような積み重ねだと思います。そういう皆様方の取り組みに心から敬意を表しますし、改めて本当に深く感謝を申し上げる次第でございます。ありがとうございます。

報告書、提言書、ご説明をいただいて、見させていただいて、少し感想的なことで恐縮ですけれども、1つは、委員の皆さんもちろん、地域の中のいろいろな分野とか、いろいろな団体で日ごろ活動、取り組みをされていらっしゃる方々に多く参加をいただいているということで、1つは、非常に幅広い多角的な視点からの指摘なり、あるいは提言なりをいただいた——正式にはこれからいただくのですが、と感じています。

もう1つは、日ごろいろいろな活動を実践されていらっしゃいますので、そういう意味で、ちょっと言い方はあれですけれども、現場目線といいますか、非常に実践的、あるいは具体的な内容の提案、提言が盛り込まれているのではないかと感じております。

もう1つは、各委員、最後にご感想、ご意見がありまして、行政、事務局、区役所への注文、あるいは私は叱咤激励と受けとめさせていただきたいと思っておりますけれども、たくさんいただきまして、若干印象に何点か残っているのは、1つは、地域課題、かなり出尽くしているのではないかと、3期が実質的に来月で終わりました、4期に入りますけれども、少しそういうところはあるかなという感じも私はしております。ただ、これは各委員、あるいは4期になられた委員の考え方なり、認識が

どういふふうになるのかというのは、またいろいろなご意見等あるかもしれませんが、出尽くしているというのは、委員も言われたように、それをいかに解決、実践、実現していくか、実施していくか、そのところのウエイトをもっと高めるべきだろうということだと思ふのです。ぜひその点についても事務局を含めて、4期の中でも議論させていただきたいと思ふし、それから、会議の運営の方法について、もっと効率的というか、言い方はあれですけれども、課題の抽出、設定、あるいはスケジューリング等含めて、出てまいりまして、それについても、第4期の初めでも、第3期の委員の皆様方からアドバイスなり助言をいただくという場面も多分出てくるのだと思ふしけれども、その辺も含めて区役所も事務局も一緒に討議をさせていただければと思ふます。その辺も含めて1つ感じましたのは、区役所とか、あるいは行政の旗振り役としての役割とか、機能、あるいはリーダーシップと言うと、ちょっと上からのような言い方で失礼なのですけれども、それが結構求められている、余り遠慮しないで、もうちょっと積極的に来いよというようなのがありまして、ただ、これは非常に難しい面もあって、これは皆さんご存じだと思ふますが、区民会議の趣旨は、区民会議自身が主体的にというか、運営の仕方、あるいは提言の仕方、その実践の仕方を進めていただくというのが大きな趣旨でございまして、そこに事務局なり行政の主体性というか、積極性というか、それをどんなふうにもうまく組み合わせていくのかという非常に難しい部分もあると思ふます。それから、任期がございまして、今度第4期の委員さんで、7月から始まるわけですけれども、第4期の委員さんのお考えがどういうところにあるかということもあると思ふますので、そういった面も含めて、先ほどお話しさせていただいた第3期の委員さんも入り口のところでいろいろご助言をいただく場面もありますので、もちろん行政、区役所も一緒になって、そういった問題提起を第4期のほうにもさせていただきたいと思っております。

提言については、もちろんできるだけ早く、あるいは段階的なものもあるかもしれませんが、実現をしていく、実施していくということで取り組んでまいります。その際には、地域の皆さん方にご協力をいただく、あるいは区役所と協働して取り組むということになりますので、引き続きその辺についてはご協力をよろしくお願いしたいと思います。

それと、もう1点は、区民会議の周知とかの問題も、周知のことだけではないのですけれども、引き続き皆さん地域の中でいろいろな活動、取り組みをされるということでございまして、今期の区民会議で議論されたこと、あるいは提言されたことを1つずつでも皆様方お1人ずつ広めていただきたいと思いますし、区民会議の存在ですとか、あるいは意義ですとか、やっている内容、役所ももちろん広報等含めて全力を挙げてやっていきたいと思ふます。ぜひ皆様方にも引き続きそういった面のご協力をよろしくお願いしたいと思います。

長くなりましたけれども、最後に改めて、本当にありがとうございました。感謝、御礼を申し上げまして、私のごあいさつにさせていただきます。どうもありがとうございました。

武濤委員長 瀧峠区長、どうもありがとうございました。

4 閉 会

武濤委員長 それでは、これをもちまして、第3期区民会議、本日の会議で予定しております内容はすべて終了いたしました。

来月まで任期は残っておりますけれども、2年間の会議の場での審議ということで、皆様、大変お疲れさまでございました。

これで第7回麻生区区民会議を閉会したいと思います。どうもありがとうございました。お疲れさまでした。(拍手)

午後5時12分閉会